

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成25年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム H I G O	申請大学名	熊本大学
申請大学長名	谷口 功		
プログラム責任者	竹屋 元裕		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施計画については、留学生のリクルート活動、実のある海外インターンシップ計画の立案等において一部遅延が認められるものの、全体としては順調に実施されている。また採択時の留意事項に関してもそれなりに対応している。 ・教育プログラムについて、4年制学部、6年制学部、それぞれの卒業生に応じた博士の学位取得に向けたプログラムが組まれている。 ・組織・マネジメント体制等については、プログラム担当者に行政・産業界の関係者を取り込むなど、産官学が連携した組織体制を構築している。外部評価体制はまだ整備されておらず、計画中である。 <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムの目的をもう一度確認・整理した上で、現在の教育プログラム(セミナー講師や海外インターンシップの方式など)の実施方法が、プログラムの目的を達成するために最適なものなのかを検討して欲しい。 ・グローバル(グローバル+ローカル)というキャッチフレーズは独創的で、採択の決め手にもなった点であり、アジアを中心に考えることは結構だが、採択時の採択理由でも指摘しているように、プログラムが中国と韓国に偏っている感がある。もっと東南アジアやアジア全体を対象を拡げた計画に発展させて欲しい。 ・プログラム定員が20名のところ、平成24年度受講者は9名とかなり少なめである。予算規模から考えても、もっと大学内、国内および海外の他大学にも宣伝をして、定員に近い数の学生を集め、プログラムをより発展させることが望まれる。そのためには、優秀な留学生をもっと積極的にリクルートする方策を取ることが望まれる。 ・海外でのインターンシップは本プログラムにおいて重要なポイントであり、熊本大学の海外オフィスの視察といったものではない、真のインターンシッププログラムを考える必要がある。 ・学生との面談を通じ、学生はとてもやる気はあるが、現在のプログラムには必ずしも満足していないという印象を受けた。担当教員が当該学生たちの意見をもっとよく聞いて、彼らがグローバルリーダーとして自信を持って巣立っていけるような内容にして欲しい。 			